

※各講座の詳細は千葉リハホームページに掲載しています。

生活版ジョブコーチ支援研修会 ▶

日時: 2026年12月18日(金) 13:00-16:00

場所: 千葉リハビリテーションセンター 大ホール

対象: 千葉県内の事業所にお勤めの支援者

内容: 毎年大好評をいただいている研修会です。生活自立のために
何ができるんだろう? どんな視点をもっていけばいいんだろう?
生活版ジョブコーチって、どんなことをするの? 知識を得るだけ
でなく、実践的な演習を通してあなたの支援力を底上げします!

リハビリテーション千葉懇話会

日時: 2027年1月23日(土) 13:00-16:00

場所: 千葉市文化センター 3F アートホール

対象: 高次脳機能障害に関心がある方 どなたでも

内容: 表紙コメントを下さった豊田先生にご講演いただきます。

詳細は今後千葉リハHP、SNSにUPLしていきます!
(県内の就労に関する様々な情報が得られるよう企画中です!)

第9回

高次脳機能障害
生活版ジョブコーチ
支援研修会

参加費無料

「高次脳機能障害の方の生活支援って、どう考えたらいいのかな?」
高次脳機能障害は「見えない障害」とも言われ、抱えている困りごとが周囲からは分かりにくい障害です。しかし実際には、多くの場面ですぐサポートを必要としています。その一方で、支援が必要であるにもかかわらず「できる」と判断されて家族だけが負担を抱えていたり、逆に本人にできる力があるにもかかわらず適切な支援が行われていたりすることがあります。こうした状況に対して、生活版ジョブコーチ支援は有効な支援手法の一つです。支援者が適切なアセスメントを行い、代表手段の導入や環境調整を進めることで、本人が生活の一部を自ら担えるよう支援していきます。本研修では、実際の事例を紹介しながら、この支援のコツについて学びます。日頃の支援にすぐ取り入れられる実践的なヒントが見つかるはずです。

日時

2026/12/18 金

13:00-16:00
(受付 12:30 ~)

会場

千葉リハビリテーションセンター
新棟 大ホール

対象者

高次脳機能障害の支援に携わる千葉県内の事業所(相談支援事業所、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション等)にお勤めの支援者の方
※定員の制限上、千葉県外の支援者の方はお申込みをご遠慮下さい

定員

30名(申込み多数の場合、1施設1名様の制限とさせていただきます)

研修内容

講義

70分『高次脳機能障害 暮らしの自立に向けた支援
～生活版ジョブコーチ支援～』

分

70分『生活版ジョブコーチの視点で事例を考えよう』

研修講師: 千葉県高次脳機能障害支援センター 事務局

※当日は、講義とグループワーク両方の参加が条件となります。講義のみの参加はできません。

問合せ先

TEL 043-291-1831
千葉県高次脳機能障害支援センター
(千葉リハビリテーションセンター)

申込方法

裏面に申込方法
ご参照ください
申込締切 11/

仮

話題の
新刊

こんなときどうしたらいいの?
高次脳機能障害
かわりのコツ
ハンドブック

対応を考えるときのコツ

こんなときどうする?

New
新しいハンドブックできました!

支援者の皆様が直面する「こんなときどうしたらいいの?」が解決しちゃう(かもしれない)、ハンドブックを作りました! いつもあなたのそばに置いていただけるよう、A5サイズで携帯しやすくなっております。
千葉リハホームページからダウンロードいただけます。

編集後記

この夏は、熊本の地震・千葉の豪雨など災害が続きましたね。千葉リハ近辺もまだまだ爪痕が残っておりますが、皆様の地域のご様子はいかがでしょうか。有事の際、誰も何らかのサポートが必要になると思いますが、高次脳機能障害のある方が少しでも安心して過ごせるよう、周囲の方の理解促進を急ピッチで進めなくては! と強く感じた夏でした。

今号の支援部長コスプレは…マツケンサンバ!! 毎年当センターでは夏祭りを開催しており、みんなと一緒に踊るのが名物…を通り越してもはや文化となって根付いています。障害のあるなしを問わず、地域で助け合って暮らすというのも、大切な文化だだと思います。(編集担当:K)

きつかつたなあ
1日に6回公演は
きつかつたなあ

こへじのう
掲示板

2026.9 vol. 56

発行日 ■ 2026年9月30日

発行 ■ (福)千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハテーションセンター
千葉市緑区菅田町 1-45-2 TEL 043-291-1831 (代) 内 198

発行責任者 ■ 地域支援センター 高次脳機能障害支援部
部長 森戸 崇行 [高次脳機能障害者支援センター]

https://www.chiba-reha.jp/ ※ホームページからご覧いただけます

千葉リハビリテーションセンター

千葉市緑区菅田町 1-45-2

千葉リハテーションセンター

千葉市緑区菅田町 1-45-2

千葉リハテーションセンター

千葉市緑区菅田町 1-45-2



掲示板

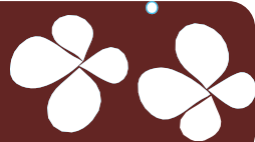


- 支援センターだより
- 全国の動き・イベント講習会報告

こへじのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関わる情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージをいただき掲載しております。



『治療と就業の両立支援 & 高次脳機能障害』

労働者健康安全機構 中国労災病院
治療就労両立支援センター

所長 豊田 章宏
とよた あきひろ



大学卒業後は脳神経外科医として主に急性期治療に携わっていましたが、縁あって労災病院に勤務した際にリハビリテーション科の運営を依頼され、その後は脳卒中地域連携パス作成や地域リハビリテーション事業に関わることになりました。現在は労働者健康安全機構における治療と就業の両立支援事業に関与しております。

高次脳機能について学んだ頃を振り返ると、難しい単語がたくさん並んで、なんとなく掴み所のない、とにかく大変なのだろうなというイメージがありましたが、高次脳機能というからには一次脳機能があるはずで、それは脳への情報入力である「知覚」と脳からの出力である「運動」であり、その上位にある認知や判断を伴う機能は全て高次脳機能であると整理すれば少しスッキリしたことを覚えています。

高次脳機能障害は脳卒中の両立支援における大きな課題ですが、分かりにくいとか見えにくい障害といわれているのも納得できますし、患者・家族はそれ以上に混乱しています。しかし、高次脳機能障害を複雑にしているもうひとつの要因は支援制度やその解釈です。2026年度から高次脳機能障害者支援法が施行され定義と病態とはやっと一致しましたが、特に失語症においては支援制度との解離は解消されていけませんので注視し続ける必要があります。これらの原因の多くは制度の縦割りにありますが、診療面においても神経と精神に関わる全ての診療科の多職種連携が必要になると思います。



令和8年度 第17回千葉県脳損傷者運転支援連携会議

2026.6.19
Web開催

千葉県脳損傷者運転支援連携会議では、新たに2つの医療機関が加わり、計23の医療機関・職能団体で運営しています。毎回、運転支援に関する課題を共有しており、第17回会議では参加施設の取組み報告に加え、支援の実態と成果を体系的に把握分析する「千葉県脳損傷者運転支援データベース」について意見交換を行いました。当センターホームページに活動概要を掲載し、随時更新しています。



令和8年度 第3回 千葉県高次脳機能障害者支援センター連絡会 (C-HUB)

2026.6.16
Web開催

千葉県高次脳機能障害者支援センター連絡会(C-HUB)を開催しました。本連絡会は、県内の高次脳機能障害者支援センターと3つの地域支援センター同士の連携を深め、高次脳機能障害のある方やご家族が、地域を問わず必要な支援につながる体制づくりを目的として開催しています。昨年の立ち上げから3回目となる今回は、県内の支援センタースタッフに加え、県の障害者福祉推進課担当者もオンラインで参加する事となりました。相談支援の状況や研修事業、普及啓発活動、家族会との連携について情報共有を行いました。また、当事者・家族交流会「てのひらの会ぶらす」や就労支援に関する企画、支援者養成研修などについても活発な意見交換が行われました。今後も関係機関のつながりを強化し、県内どこでも切れ目のない支援が受けられる体制づくりを進めていきます。



▲C-HUBの皆さんとWEBで意見交換中

令和8年度 第1回高次脳機能障害者支援事業全国連絡会

2026.6.26
Web開催

今回の全国連絡会は、令和8年4月に高次脳機能障害者支援法が施行されてから、初めての全国連絡会でした。会では、厚生労働省の担当者より高次脳機能障害者支援法についての詳しい説明がありました。また、それぞれの省庁から学校教育や高次脳機能障害児への支援についての報告がありました。国立障害者リハビリテーションセンターからの研究報告では、本人が支援を必要としていない、その時点では症状が顕著ではないという理由などで急性期での支援が途切れやすく、就労困難となる弊害が生まれているとありました。今回の連絡会では、回復期リハビリテーション病棟での高次脳機能障害者に対する退院支援の改定の話もあり、医療機関での高次脳機能障害者支援センターや障害福祉サービス事業所などの情報を説明し、提供する重要性が挙げられました。高次脳機能障害者支援センターの重要性がますます高まっていると感じました。

旭神経内科リハビリテーション病院

6月に「高次脳機能障害の支援」というテーマで院内勉強会を開催いたしました。当院で実際に経験した高次脳機能障害をもつ方の支援の流れ、そして「運転再開支援」「復職支援」の取り組みについて紹介いたしました。当院では、月1～2回程度、「運転再開支援」と「復職支援」のカンファレンスを実施しています。こちらは立ち上げてから数年ほどであり、院内の認知度が低いことが問題点として挙がっていたため、今回の勉強会を機に興味を持っていただけのきっかけになりました。

今年度は12月に外部向け講習会として、当事者様をお招きして「易怒性」をテーマに講演予定です。当院ホームページにも案内を掲載しますので多くの方に参加いただければと思います。



亀田リハビリテーション病院

高次脳機能障害当事者・家族合同交流イベント「てのひらの会プラス」に参加しました。当地域からは家族会が大型バスを利用し会場へ向かうにあたり、当地域支援センターも同行しました。久しぶりの遠出を楽しみイベントでは日頃の困りごとや、近況等について活発な交流が行われ参加者の視野が広がる貴重な機会となりました。また、別日に亀田リハビリテーション病院にて家族会を開催しました。言語聴覚士より「運転再開支援と高次脳機能障害」をテーマに講話があり、運転再開に向けた評価の流れや検査内容について学ぶ機会となりました。参加者からは関心の高いテーマとして多くの質問が寄せられ有意義な情報共有の場となりました。



▲てのひらの会ぶらす
出発式



▶家族会

総合病院 国保旭中央病院

令和8年6月20日(土)に開催された、「高次脳機能障害当事者・家族・支援者 交流会」についてご報告いたします。今回は「脳の疲れやすさと注意の持続のむずかしさについて、みんなで考えよう」をテーマに、ミニ講義と座談会を実施しました。

当事者やご家族、支援事業者の方など29名にご参加頂き、会の後半では4つのグループに分かれて情報交換や交流の時間を設けました。当事者の悩みや本音、高次脳機能障害の方への関わり方、支援やサービスについてなどが話題に挙がり、有意義な情報交換の場となりました。次回は「自動車運転」をテーマに11月28日(土)に開催いたします。





青年期家族グループ：千葉県障害者テクノスクール見学会！（7/15）

テクノスクールって
こんなところだす



学校を卒業したら、うちの子どうなるの？という不安や疑問に応える「青年期家族グループ」今年度第1回は、「千葉県障害者テクノスクール」にお邪魔してきました！

実際の校舎内をくまなく
見学しました ▶



7家族8名の方にご参加頂き、千葉県障害者テクノスクールさんを見学させて頂きました。多くのコースがあり、興味のある方面について専門的に学べるようになっていました。高次脳機能障害のある方向けのコースも用意されており、何かの技能を高めるというより「自分のことをよく知る」「自己管理」に重きがおかれていました。業種を問わず求められる力であり、しっかり訓練が受けられるのは非常に魅力的だなと感じました。参加者アンケートでは「タイムリーな話題で大変参考になった」「オープンキャンパスに本人を連れていきたい」など非常に好評でした。

高次脳機能障害 地域支援者向け連続講座

Web開催

毎年好評の両企画、今年度も
Web(オンデマンド配信)にて実施！



当事者・家族のための 高次脳機能障害勉強会

Web開催

**高次脳機能障害
地域支援者向け
連続講座 2026**
Web開催 (オンデマンド配信) 参加無料

※講師：2025年度に「高次脳機能障害」に関する講演や研修などを行い、高次脳機能障害に関する知識やスキルを身につけた方です。また、高次脳機能障害に関する経験や知識を共有し、地域支援者としての役割を果たすための講座です。

日程	時間	内容
第1回	8/17(日) 9:30~	(1) 連続講座 (2) 連続講座 (3) 連続講座
第2回	10/19(日) 11:27~	(1) 連続講座 (2) 連続講座 (3) 連続講座

申込はこちら

【地域支援者向け連続講座】8/17-9/30,10/19-11/27

2回目のオンデマンド配信、今年度も470名以上のお込みをいただきました。県外の方も多く、全国的に関心が高まっているのを感じました。「具体的で分かりやすかった」「なぜ高次脳が難しいのか、よく分かった」毎年見て下さっているリピータさんからは「忘れた頃に思い出せるので助かる」とコメントをいただきました。

8/17-9/30【当事者家族勉強会】

こちらも昨年に引き続き、オンデマンド配信としました。「当事者・家族」の方を想定して作成していますが、今年度も多くの支援者の方も聞いて下さったようです。アンケートには「平易な言葉で分かりやすかった、疲れないように工夫してあってよかった」などのコメントがありました。みんなで見られる入門編！として今後も継続していきます。

**2026
当事者・家族のための
高次脳
機能障害
勉強会**
Web開催

参加費 無料

Web 配信期間 8/17(月) 9:00 ~ 9/30(水) 終日

第1回 高次脳機能障害の主な症状と基本的な対応
第2回 高次脳機能障害の診断と治療
第3回 高次脳機能障害の支援と生活

申込はこちら

第1回 家族のつどい(9/16)

今回は懇談会を行いました、21名の参加がありました。親、配偶者、子など、それぞれ立場は違いますが、ご家族同士でざくばらんに悩みを打ち明け、それに対して「わかる！自分もそうだった」と優しくサポートし合う場となりました。涙あり、大笑いあり、の時間でしたが、感想からは「今までで一番本音で話せた」「良い気晴らしとなりました」「吐き出すと笑顔になりました」などの声を頂きました。



小児家族グループ(7/6)

7月のテーマは、「教育における合理的配慮について」でした。特別支援教育コーディネーターの椎津麻美先生より、学校現場での合理的配慮の実践についてや受験にかかる特別配慮申請について具体的に教えていただきました。学校と子ども・家族が合理的配慮について合意形成をし、個別的教育支援計画や指導計画となり教育現場の支援に活かされます。参加者は、学校に気になっていることを伝え、相談してみても良いと実感されたようでした。



青年期当事者グループ(8/19,26)

高校生以上の若者を対象に、「働く時に大切なことを知る」「高次脳機能障害のある年代との交流」を目的として実施しました。高校生・大学生・更生園利用者の計5名が参加しました。千葉リハ内の実際のお仕事を体験したり、懇談会を通じて交流を深め、「働く上で大切なことが分かった」「進路の話聞き就活への意欲が高まった」などの感想が聞かれました。今後も、同年代ならではの話題に対応できるよう、企画・運営していきます！





千葉県内家族会・高次脳機能障害者支援センター合同交流会

「てのひらの会 ぷらす」

2026.7.11 13:00-16:00 千葉市文化センター



県内の家族会代表者



発表会の様子



うちわ作り



ボッチャ



個別相談ブース

高次脳機能障害のある方やご家族、支援者が集う交流会「てのひらの会 ぷらす」を千葉市文化センターで開催しました。当日は66名が参加し、全体会では県内8つの家族会による活動紹介や、当事者によるピアノ演奏、篠笛演奏などの発表が行われました。分科会では、当事者交流会やレクリエーション（ボッチャ・うちわ作り）、親の会、配偶者の会、個別相談ブースに分かれ、交流や情報交換を行いました。また、県内の家族会代表者と支援機関が顔を合わせる機会となり、地域での活動状況や課題について情報交換を行うことができました。参加者からは、「仲間とのつながりを感じることができた」「元氣や勇氣をもらえた」「たくさんの人と交流できて励まされた」「参加して本当によかった」といった声が寄せられました。人と人とのつながりの大切さを改めて感じる、笑顔あふれる温かなひとときとなりました。（記：千葉リハ運営スタッフ）

千葉リハビリテーションセンター就労PJ主催

カフェ輪駆

2026.8.29 10:00-12:00 千葉リハビリテーションセンター



◀NASAゲーム

月面で遭難！母艦に戻るために必要な物品に優先順位をつけます。チームの意見をまとめよう！



交流会 ▶

8月29日（土）、お仕事をされている方の交流の場として「カフェ輪駆」を開催しました。前半1時間はレクリエーションとして「NASAゲーム」を実施、後半1時間は6グループに分かれて交流会（フリートーク）を楽しみました。暑い中にもかかわらず、27名の方に参加いただきました。アンケートでは「とても楽しい会をありがとうございました」「次回もぜひ参加したい」などの声をいただきました。今後も、お仕事をされている方の明日への活力につながるような会を実施していきたいと考えています。（記：千葉リハ運営スタッフ）

令和8年度 高次脳機能障害支援養成研修 第1期

2026.8.5-8.7 幕張メッセ国際会議場301



当日は個人ワークやグループワークを中心に研修を行い、高次脳機能障害の基本的な知識と当事者やご家族への支援について日々の支援に活かせる知識や視点を深める機会となりました。また、近隣の事業所同士で意見交換を行うことで、それぞれの地域における連携の強化にもつながりました。参加者からは「目に見えない障害であり支援は難しさも感じるが、だからこそ困っている方が多いと思う。実践場面で支援していきたい。」といった声も聞かれ、今後の支援の充実が期待されます。（記：亀田リハビリテーション病院）

第23回高次脳機能障害リハビリテーション講習会
高次脳機能障害者支援法
～どうなるの？わたしたちの暮らし～

2026.9.5 13:00-16:15 千葉市文化センター

講演「支援法ができるまでと期待できること」

日本高次脳機能障害者友の会 理事長 片岡保憲氏



講演「高次脳機能障害者とグループホーム」

千葉県障害者グループホーム等支援ワーカー（市川園域）岩崎淳氏

今回の講習会では、高次脳機能障害者への十分な理解や支援が不足する社会的課題を踏まえ、高次脳機能障害者支援法とグループホームについて、当事者を支える支援のあり方を学びました。本人の主観的な感覚や意欲に寄り添い、生きがいを持てる環境を整えることが重要であると実感しました。法を基盤として、本人も家族も暮らしたい場所で尊厳を持って暮らせる社会の実現に向け、日々の支援を見つめ直す貴重な機会となりました。（記：参加された支援者の方より）